

## 「Aegis 4.0」新機能のご案内

[Portfolio Manager](#) | [Performance Analyst](#) | [DataConnect](#) | [Portfolio Accountant](#) | [Automation Assistant](#) | [Developer's Toolkit](#)

---

### Portfolio Manager

Portfolio Manager 4.0 では下記の新機能をご利用いただけます。

#### 対ベンチマークの最適化による Long Short Optimization

Long Short の最適化において、ベンチマークを設定して 130/30 などアクティブ戦略を推進することが可能となりました。マーケット・ポートフォリオは引き続きご利用いただけますので、アクティブ・リスクまたはトータル・リスクの最適化を選択することができます。

#### マーケットに対する相対的な Constraint

相対的な制約「m」を用いることにより、対マーケット・ポートフォリオのエクスポージャーや保有銘柄ウェイトを容易に制限することができます。「m+x」、「m-x」、「m\*x」(x は実数)の形式で入力できます。

#### ロング/ショートポジションの最小取引基準の制約による Long Short Optimization

最低取引基準の制約を利用して、少な過ぎるロング/ショートサイドの取引を回避することができます。例えば、こうした制約を用いて、売買を少なくとも 0.5% に維持したり、カバードバイやショートセルを少なくとも 0.25% に維持することが可能です。

#### ロング/ショートポジションの最低保有基準の制約による Long Short Optimization

最低保有基準の制約を利用して、ポートフォリオのロング/ショートサイドのポジションが少な過ぎないようにすることができます。例えば、こうした制約を用いて、ポジションのロングサイドが 0.03% より少なくなったり、ショートサイドが 0.05% より少なくならないようにすることができます。

#### Turnover Long と Turnover Short による Long Short Optimization

ポートフォリオのロングサイドのターンオーバーを示す Turnover Long と、ポートフォリオのショートサイドのターンオーバーを示す Turnover Short を確認したり、最適化の中で制限することができます。

#### Beta Long と Beta Short

Long Short の最適化を実行する際、ロングポジションの加重平均ベータ値を示す Beta Long と、ショートポジションの加重平均ベータ

値を示す Beta Short をご覧いただけます。

### レバレッジの範囲

レバレッジに最小/最大範囲を設定すると、最適マイザーが最適のレバレッジ比率を選択してくれます。

### ターンオーバーに Base Value を利用

ターンオーバーの算出方法を変更して、Base Value セレクションを利用することができます。例えば、ターンオーバーを算出する分母に、ポートフォリオ価格の絶対値を用いるデフォルトではなく、Net Base Value を用いることを選択することができます。

### リスク・バジェットingの最適化

最適化のタイプが Standard の場合、Risk Index、Industry、Country、Currency、Common Factor、Asset Selection など、リスクグループへの最大貢献度を設定しておくことができます。例えば、最適ポートフォリオにおける Active Risk への貢献度について、Common Factor を 25% に設定したり、Asset Selection を 75% に設定することができます。

### デュアル・ベンチマークの最適化

デュアル・ベンチマークの問題は Secondary Active Risk の制約を設定することにより解決できるようになりました。従来通りプライマリー・ベンチマークに対するトラッキングエラーを最適化しながら、第二のベンチマークに対するアクティブ・リスクに上限/下限を設定することができます。例えば、第二のベンチマークに対するアクティブ・リスクを 0.5~3% に抑えながら、プライマリー・ベンチマークの S&P500 指数に対する最適化を図ることができます。

### トータル・リスクの範囲

Total Risk Bounds の制約を用いて、アクティブ・リスクの最適化と最適ポートフォリオのトータル・リスクの制限を同時に行うことができます。例えば、アクティブ・リスクを最適化しながら、トータル・リスクを 7~10% に設定することができます。

### ターンオーバーの Soft Constraint

Max Turnover の制約を Soft Constraint として設定しておくこと、Max Turnover の制約が最適化の実現不可能または実行不可能な原因となる場合、最適マイザーがその制約を緩和してくれます。

### ファクターの Soft Constraint

ファクターの制約を個別に Soft Constraint に設定することができます。

### GEM における After-Tax Optimization

グローバル株式モデルとヨーロッパ株式モデルでは、税引き後の最適化を実行することができます。

### 最適化におけるエラーメッセージの改良

旧バージョンより多くの情報をエラーメッセージにて提供します。制約を瞬時に把握し、修正することが可能です。

### Common Factor のリスクソースの表示

Risk Decomposition レポートや Risk Comparison レポートで、Common Factor のリスクをご覧いただけます。

### オプション・プロセッサ

オプションの市場価格を用いてオプションを登録したり、Barra の推定ボラティリティを使用する代わりに、原資産のボラティリティを設定したりすることができます。また、個別の配当ではなく、配当利回りを設定することも可能です。

### ルック・スルー・コンポジット

マージナル・コントリビューションや%リスクなど、構成要素レベルでコンポジット・アセットのリスク特性を評価することができます。このオプションの影響を受けるのはワークスペースだけで、ポートフォリオにコンポジットが含まれている場合に限られます。

### Favorites にあるレポートの整理

Favorites フォルダにあるレポートを自分の好みに合わせて整理することができます。

---

## Performance Analyst

Performance Analyst 4.0 では下記の新機能がご利用いただけます。

### Long Short Attribution

Long Short Attribution Tree では、ロングサイドの Attribution をショートサイドの Attribution とは別に分析することができます。この機能を有効にすると、Net(正味属性)、Long(ロングサイドの属性)、Short(ショートサイドの属性)の3種類のレポートが提示されます。まず Preference でこのオプションを選択し、その後、Long Short Attribution Data Source (ADS) を処理すると、Long Short Attribution の分析結果が得られます。

### Long Short Attribution に Base Value を利用

Long Short Attribution の算出に、Base Value を選択することができます。Available Base Values は Net(ポートフォリオの正味価値)、Long(ポートフォリオのロングサイドの価値)、Constant(すべての時点に同一価値を設定します)および Import(User Data インポートから各時点に異なる値を設定します)です。

### Asset Contribution レポートの統合

Navigation Settings でこのオプション機能を有効にすると、Assets Held レポートと Assets Not Held レポートを統合した Asset Contribution レポートがご覧いただけます。

### アセット・リターンが不明な場合のインポート

不明アセット・リターンのログから、データベースにリターンが保存されていない資産のリターンを入力することができます。そのログを保存し、不明リターンを入力すると、Performance Analyst に再びインポートすることができます。

---

## DataConnect

DataConnect 4.0 では下記の新機能をご利用いただけます。

### User Data ジョブ

ファンダメンタル・データを自動的に Aegis 用フォーマットに転換したり、インポートしたりすることができます。

---

## Portfolio Accountant

Portfolio Accountant 4.0 では下記の新機能をご利用いただけます。

### データベースの登録

Open Portfolio Database ダイアログから複数のデータベースを同時に登録することができます。

### データベースのソート

Open Portfolio Database ダイアログのコラム上にあるデータベースをソートすることができます。

### タックス・ファイルのインポート

マッピング・ケースを用いなくて、タックス・ファイルをインポートすることができます。

### Cash Identifiers 用ワイルドカード

ワイルドカード(\*)を用いて、銘柄をキャッシュとしてマップすることができます。

### 複数の ID Type をインポート

同一銘柄に複数の ID Type がついているソースファイルをインポートすることができます。

---

## Automation Assistant

Automation Assistant 4.0 では下記の新機能をご利用いただけます。

### ユーザー・データが入手できる場合に限られる最適化

厳密な間隔をおいてではなく、期待リターンなどユーザー・データが提供される日によりバランスする時系列最適化を設定することができます。

### **週に一度の最適化**

週に一度、選択した日に最適化することができます。

### **時系列ユニバース・ポートフォリオ**

リスクレポートや最適化ジョブで、時系列化されたユニバース・ポートフォリオを利用することができます。

### **期待リターンを設定した銘柄のみを利用**

時系列最適化におけるアセット・ユニバースを期待リターンが設定されている銘柄に限定することができます。

### **ファイルの名前**

リスクレポートやパフォーマンスレポートにファイル名を設定できるようになりました。

---

## **Developer's Toolkit**

Developer's Toolkit の Optimizer や Long Short の追加機能についての説明は、Portfolio Manager と Performance Analyst での新機能をご覧ください。Developer's Toolkit 4.0 では下記の新機能をご利用いただけます。

### **特定日における日次/月次エクスポージャーの抽出**

### **Reject/Accept された銘柄リストの入手**

### **Excel を開いたままで ADT オブジェクトのリリース**

### **Portfolio Accountant をロードする際、保有日の指定**